

はじめに

近年、情報技術の飛躍的な発達により、ふじみ野市民の暮らしにも、大きな情報化の波が訪れ、大量かつ速い情報伝達が可能となりました。また、ひとりひとりの自己判断、自己責任が強く求められるようになっていきます。そのためには、正確で客観的な情報を得られることが重要です。

しかしながら、所得格差や情報へのアクセス技術の格差により、誰もが必要な情報を得られるというわけではありません。

図書館はすべての市民に開かれた施設であり、図書、新聞、雑誌、行政資料等を幅広く収集・整理・保存・提供しています。またインターネット上の情報も利用できるようにするなど、様々な事業を行っています。図書館は、必要な情報を得たり学んだりするための場として、現代社会においてますますその役割が大きくなってきています。

そこで、ふじみ野市民の生活により役立てていただけるよう、図書館の使命や目標を明らかにし、公表し、実践するために、図書館サービス計画を策定することになりました。

どうしたら図書館をみなさんの生活の一部として活用していただけるのだろうか。今回「図書館サービス計画」はそのことを第一に考えて作成しました。計画は実行しなければ意味のないものとなってしまいます。そこで、これまでの図書館サービスの実態を明らかにしながら、将来的に実現可能な目標設定を行いました。

ふじみ野市では「自信と誇りそして愛着のあるまち ふじみ野」という目標を総合振興計画で掲げています。図書館という場所は、みなさんの暮らしとまちづくりに必ず役立つはずです。

ふじみ野市立図書館は、ミッション（使命）とそれを支える3つのビジョン（展望）を策定し、今後5年先を見据えて図書館を運営していくことをここで宣言いたします。

ミッション

市民の暮らしが豊かになるよう、「知りたい、学びたい、楽しみたい」を支えます

ビジョン

- (1) 地域の情報拠点を目指します
- (2) 市民の学びを支える図書館を目指します
- (3) 市民とともに歩む図書館を目指します

1 ふじみ野市立図書館サービス計画の目的

平成22年1月に合併後の最大の課題であったコンピュータシステムが統合されたことにより、ふじみ野市立図書館として一体的なサービス実現の基礎が整いました。これまでも上福岡図書館・大井図書館それぞれが年度ごとに重点目標を定めて運営してきましたが、ふじみ野市立図書館サービス計画(以下「サービス計画」という。)は、新たな図書館運営の基本となるものです。ふじみ野市立図書館は、市民に図書館サービスの内容を明示し、図書館職員にとっては職務遂行の指針とするためにこのサービス計画を策定します。

2 サービス計画の背景

図書館サービス計画の必要性については、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成13年7月18日 文部科学省告示第132号)で「公立図書館は、そのサービスの水準の向上を図り、当該図書館の目的及び社会的使命を達成するため、そのサービスについて、各々適切な「指標」を選定するとともに、これらに係る「数値目標」を設定し、その達成に向けて計画的にこれを行うよう努めなければならない。」と、図書館サービスの計画的実施の必要性に言及しています。また、文部科学省生涯学習局が設置した「これからの図書館の在り方検討協力者会議」が平成18年3月に報告した『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～』でも「市町村合併を踏まえた図書館経営」の項で新たなサービス計画の策定に取り組むよう述べています。こうした図書館経営の計画的実施の方向が示されていることをふまえ、サービス計画を策定するものです。

3 サービス計画の位置付け

サービス計画は、「ふじみ野市総合振興計画」「ふじみ野市子ども読書活動推進計画」、その他の関連する計画との整合性を図りながら、図書館運営の基本的な方向と具体的な方策を明らかにし、関連する施策を体系的に実施するためのものです。

4 サービス計画の期間

サービス計画の期間は、平成22年度から概ね5ヵ年とし、社会情勢の変化に応じて計画の見直しを行っていきます。

5 図書館のあゆみ

上福岡図書館は、昭和53年6月に旧上福岡市上野台団地に開館しました。その後、本格的な図書館建設を求める市民主催の図書館大会や請願がありま

した。昭和57年建設審議会を設置し、昭和61年に建設についての答申が提出されましたが、建設用地取得が困難なため建設には至りませんでした。平成2年に現在地を用地として決定し、平成4年12月に建設着手し、平成6年9月「上福岡市立市民図書館」として開館しました。合併後は名称を「上福岡図書館」と改めました。

大井図書館は昭和51年に亀居分館に開館しました。昭和61年に、建設用地を現在地に確保しました。同年8月中央社会教育施設建設審議会が図書館と郷土資料館の併設を答申し、旧大井町は答申を受けて昭和62年7月に建設に着手し昭和63年7月に開館しました。

合併後のふじみ野市の図書館サービスは、上福岡図書館・大井図書館・上福岡西公民館図書室・移動図書館・地域文庫のサービス網により実施しています。平成21年3月には、「ふじみ野市子ども読書活動推進計画」を事務局として策定しました。平成22年1月には念願のコンピュータ統合が実現しました。

6 ふじみ野市立図書館の現状と課題

(1) サービス網

上福岡図書館・大井図書館・上福岡西公民館図書室・移動図書館・地域文庫で全域サービスを行っています。上福岡西公民館図書室は、上福岡図書館から職員1人を交替で派遣して運営しています。地域文庫は4文庫をボランティアで運営しています。移動図書館は、ボランティアと図書館職員により駒西、元福、西原、さぎの森、東台の各小学校に巡回貸出サービスを実施しています。

サービス網の課題は、うれし野地区、大井一・二丁目、市沢、苗間など本市の南東部にサービスポイントが地域文庫1か所しかなく、この地域の利用が少ない状況となっていることです。特に苗間地区の利用率は、大井地区の利用率の平均が17%に対して8%、うれし野地区10%、大井地区が11%と、低くなっています(資料1)。このため、この地域への移動図書館巡回サービスの拡充や分館の設置などの検討が必要と考えられます。

両館の機能的な分担は、上福岡図書館が中央館的な役割を、大井図書館は地域に密着したきめ細かいサービスを展開する地域館的機能をもたせるなど、それぞれの特徴を生かしたふじみ野市全体のサービス向上が課題となっています。

(2) 職員体制

平成22年度の職員数は、上福岡図書館が12人(うち司書有資格者8人)、大井図書館が6人(内司書有資格者4人)となっています。職員に占める司書の割合が67%と比較的司書の比率が高く、これが高いサービスを維持できている要因です。しかし、平成17年度に比べ、職員が4名減少していることや、司書の新規採用が平成7年度以降行われてないため、このままでは職員の高齢化が進み、今後の運営に支障が出るのが懸念されます。また、館長が兼務のため全体的なサービスの調整や推進が取り組みやすい反面、危機管理や業務遂行上で十分な統括業務ができない面もあります。

(3) 施設設備

両館とも、1階部分ですべてのサービスを実施することができ、ひとつのカウンターで利用者に対応しているため、職員にとっては業務がしやすい施設となっています。2階部分は研修室や集会室などの施設となっています。利用者からも使いやすいという声もあり、全体的には図書館機能が発揮できる施設となっています。

しかし、両館とも駐車場と書庫スペースが狭く、駅から徒歩10分以上と遠い距離にあります。経年劣化により施設設備等の老朽化も進んで、突発的な修理等が必要になっています。

(4) 図書館運営全般

基本的な運営方針は、貸出サービスを中軸にしつつ、上福岡図書館は、「暮らしに役立つ図書館」を目標に、市民や学校、行政などの課題解決を支援する情報提供に力点を置いています。一方、大井図書館は「地域に根付く身近な図書館」を目標に、地域文庫やボランティアとの連携による児童サービスの充実を図っています。

また、職員のスキルアップのための研修会に積極的に参加しています。職員会議等でも、日常の課題や問題を全員で検討協議し、事務改善と職員の意識改革に努めています。また両館の共同事業としてパソコン講習会や移動図書館の巡回サービスも実施しています。

(5) 図書館活動と県内での位置

本市における平成20年度の活動状況は、図書購入費が20,393千円、蔵書数が506,203点、貸出冊数が896,583点、集会行事等参加者数7,291人となっています。県内公共図書館との比較では、

人口一人当たり図書購入費が195円で79市町村のなかで第25位、人口一人当たり蔵書冊数が4,85冊で第16位、人口一人当たり貸出冊数が7,72点で第10位となっています。全平均では17位でいずれの指標も県平均を上回っています。県内の市立図書館で比較すると人口一人当たり蔵書冊数が第3位、人口一人当たり貸出冊数が第4位となっており、県内でも優れた図書館活動をしていると言えます。(『平成21年度埼玉の公立図書館』埼玉県図書館協会編・発行(資料2)から)

人口産業構造が類似している市の比較(資料3)では、職員数、蔵書数、貸出冊数ではいずれも平均を上まわり、とりわけ貸出冊数は2位となっています。しかし、資料購入費や予約件数は平均より下回っています。特に予約が少ないことが特徴であり、予約サービスの周知、貸出中の本や未所蔵資料を求める利用者に対して、予約への案内を積極的に実施することが求められています。特に大井図書館の予約件数が少ないことから、「あんなカウンター」の設置の検討が必要です。

(6) 一般向けサービス

上福岡・大井両図書館では、暮らしに役立つ法律関係のパンフレットを集めた法情報パンフレットコーナーを設置し、また、上福岡図書館では、就職・起業・経営関係の資料を集めたビジネス支援コーナーを設置しており、生活課題に合わせた資料提供の充実に努めています。ビジネス支援コーナーの資料は、土日にまとめて貸し出されることが多く、就職や起業・転職などに役立っています。またテーマ展示やミニ展示によって資料の積極的提供を行っており、展示することによって貸出しにつながっています。資料費が縮減傾向のなかで、こうした既存の資料を活用したサービスをさらに充実していく必要があります。



大井図書館の法情報パンフレットコーナー



上福岡図書館のビジネス支援コーナー

(7) 児童サービス及びティーンエイジサービス

両館とも、学校への支援、移動図書館の巡回貸出し、おはなし会の実施、他施設への読み聞かせ講座等への児童担当職員の派遣など、充実したサービスを展開しています。上福岡図書館では、ビッグブック・パネルシアター・エプロンシアターを多数揃え、団体、個人の読み聞かせなどに提供しています。また、ティーンエイジコーナーを設け、蔵書も充実しており、ティーン向け事業も取り組んでいます。

大井図書館では、地域文庫による身近できめ細かい児童サービスを提供しており、読み聞かせボランティアの育成やボランティアとの連携事業も実施しており、地域に密着した児童サービスを実現しています。しかし、上福岡図書館と比べティーンエイジ向けの資料は少なく、十分なヤングアダルトサービスが展開されていません。



上福岡図書館のおはなし会



地域文庫での読み聞かせ

(8) 障がい者サービス

障がい者へのサービスは両館とも取り組んでいます。特に大井図書館では朗読作成テープ資料が充実しています。また、点訳グループとの連携など、きめ細かいサービスが展開されています。今後デイジーによるサービスが主流となるため、機器の操作や普及のためのサービスが求められています。

(9) レファレンスサービス

上福岡図書館は案内カウンターでレファレンスの対応をしていますが、両館とも専用の窓口は未設置でレファレンス記録もデータ化されていない状況です。また両館で統計の取り方が異なるなど、レファレンスを実施する体制も脆弱です。コンピュータ統合によって両館の参考資料等を有効に使い、レファレンスを的確、かつ迅速に実施していくことが求められています。

(10) 情報化への対応

情報へのアクセス技術の格差を解消するためにパソコン講習会を両館共同で実施しています。上福岡図書館は、ノートパソコンの貸出し、コンピュータ優先席の設置や無線 LAN 環境の提供、ネット端末の設置など、県内でも情報化への対応が進んでいますが、大井図書館は機器類が未整備で対応が遅れており、その整備が課題です。



パソコン講習会

(11) 資料費

地方財政逼迫の中で、資料費の減少傾向が続いています。合併時、31,118千円あった資料費が、平成21年度では21,465千円となっています。雑誌の購入費も減少しており、平成21年度は西公民館図書室の雑誌の購入を中止する事態となっています。資料費は図書館費のなかでも基礎的かつ最重要なものであり、今後資料費の確保が課題です。

(12) 市役所他部局、大学等の連携

市役所の他部局と連携して図書資料等の展示を行っています。また上福岡図書館では、毎朝ふじみ野市の関連の新聞記事見出しを全職員あてにメール配信をしています。今後は、行政関連資料の新着案内や紹介メールなどを配信し、図書館が市役所の業務に役立つものであることを積極的にアピールしていく必要があります。

実習生やインターンシップ、養護学校生徒、教員などの研修受入れを積極的に実施しており、図書館業務に関わってもらうことで、図書館のよき理解者や応援団を増やすことに役立っています。

- 7 施策の体系 – ミッション（使命）、ビジョン（展望）、プラン（計画） –
- サービス計画では、現状と課題をふまえてミッション、ビジョン、プランという3つの階層に沿って図書館が実施すべきサービスを構成しています。
- ミッションは、図書館のもつ究極的な使命で、サービスの実施によって実現すべき目標の到達点です。
- ビジョンは、上記ミッションを具体化するために目指すべき方向を3つの柱に表現しています。
- プランは、3つのビジョンをそれぞれ具現化するために取り組むべき計画を掲げてあります。

8 ミッション（使命）

市民の暮らしが豊かになるよう「知りたい、学びたい、楽しみたい」を支えます。

「ユネスコ公共図書館宣言1994年」は公共図書館を「地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人及び社会集団の生涯学習、独自の意思決定及び文化的発展のための基本的条件を提供する」ことにより「男女の心の中に平和と精神的な幸福を育成する必須の機関である」と位置付けています。ミッションでは、「宣言」の精神を生かし、ふじみ野市立図書館が、生涯学習の拠点として市民が生活する上で必要とする知識と情報を提供することを通して豊かな市民生活の実現に寄与する使命を明確化しました。

9 ビジョン（展望）とプラン（計画）

（1） 地域の情報拠点を目指します

図書館は地域の情報センターです。地域の要求や状況に応じた資料があり、市民の知りたい情報や知識の提供を行う基本的な施設としてあり続けなければなりません。

① 市民の求める資料と情報の収集と提供

上福岡図書館と大井図書館で一体的な資料提供を行い、市民の生涯学習を支えます。

② 地域（郷土）資料、行政資料の整備充実及びそれを利用した情報発信

ふじみ野市に関する資料収集と情報発信を積極的におこない、市民生活と行政の課題解決を支援します。

③ 情報を得るための通信、アクセス環境の整備と充実

市民の誰もが必要な情報にアクセスできる環境を提供し、情報格差を解消します。

(2) 市民の学びを支える図書館を目指します

生涯学習の拠点的施設として、市民の学習活動の支援や地域の教育機関・施設等と連携し、情報化社会に対応した情報支援を行います。

① 市内小・中・高等学校・大学、他図書館、他施設等とのネットワークづくり

様々な施設や機関と連携することによって、より効果的な学習環境を整備します。

② 市民の学習活動の成果を発揮できる場の提供

ひとりひとりの市民が学んだ成果を発揮する場を提供することにより、学びの成果が多くの市民にフィードバックし、互いに高めあうことができるようにします。

③ 誰でも必要な情報を得るための支援

図書館利用に障がいのある人もない人も、誰でも仕事や生活に必要な情報を得られるよう支援します。

(3) 市民とともに歩む図書館を目指します

図書館を育てるのは、市民の力であり、図書館は市民のさまざまなニーズをもとに発展していきます。また、図書館は子どもたちの一人ひとりの発達段階に応じたさまざまな読書活動ができるように子どもたちへの読書環境の整備に努める必要があります。

① 市民の声を反映する図書館運営

日々の業務の中で、またさまざまな機会を通じて市民の声を聞き、サービスの点検や計画づくりに活かします。

② 市民の要望に的確にこたえるための図書館職員の資質の向上

国や県等の研修に計画的に職員が参加し、資質を向上します。また、図書館内部の研修会を行い、全体的なレベルアップを目指します

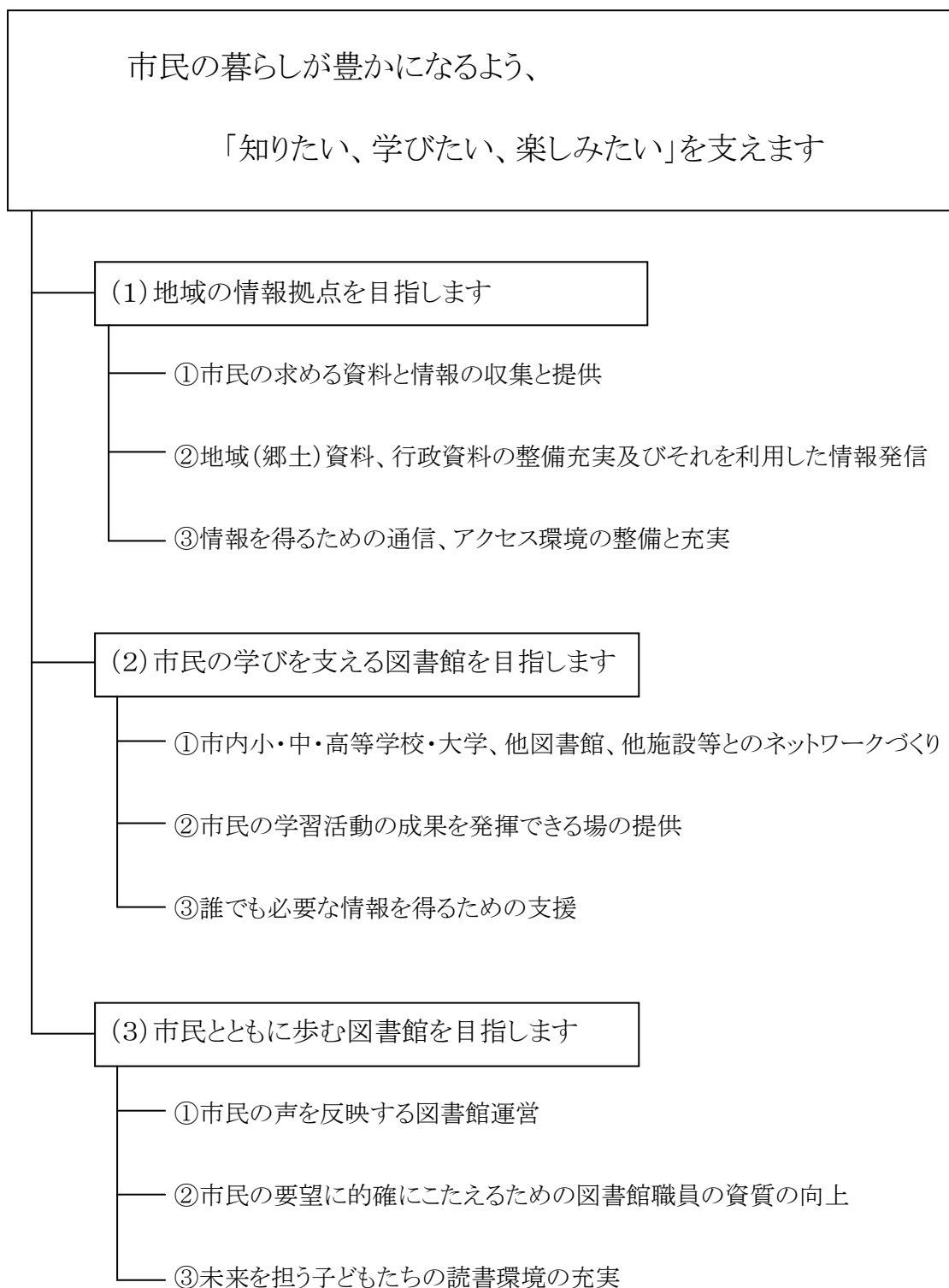
③ 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

ふじみ野市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもたちの読書環境を充実させます。



移動図書館の巡回貸出し

ミッション・ビジョン・プラン 体系図



ミッション・ビジョン・プラン・事業体系一覧

ミッション（使命） 市民の暮らしが豊かになるよう「知りたい、学びたい、楽しみたい」を支えます。				
ビジョン(展望)	プラン(計画)	事業		
(1) 地域の情報拠点を目指します	①市民の求める情報の収集と提供	全域サービスの実現 ・市南東部にサービス拠点の設置の検討 ・東台小学校に移動図書館サービスの実施 ・市バス運行コースへの組み込みの実現		
		資料全般の充実(視聴覚・郷土等幅広い収集)		
		資料収集要綱の見直し		
		蔵書構成の見直し ・郷土資料、参考資料の適正配置、運営を検討 ・利用者層に合わせた蔵書構成全体の見直し、利用者からのニーズの把握 ・収集分担（同ジャンルでも入門・専門で保存館を分ける等工夫） ・両図書館の特色・戦略の検討 ・雑誌の収集・保存の充実		
		ビジネス支援コーナーの充実		
		障がい者資料の収集整備ならびに充実		
		コンピュータシステムの更新(平成 26 年度に向け)		
		子ども読書支援ページの公開		
		リクエストサービスの充実		
		医療情報提供のための整備充実		
		テーマ展示の充実		
		②地域(郷土)資料、行政資料の整備充実及びそれを利用した情報発信	Web 版郷土資料コーナーの充実 行政資料の充実 ・無料配布資料の収集 ブックリストの作成と Web 公開の実施 パスファインダーの構築(調べ方の道筋を示すもの)	Web 版郷土資料コーナーの充実
				行政資料の充実 ・無料配布資料の収集
				ブックリストの作成と Web 公開の実施
				パスファインダーの構築(調べ方の道筋を示すもの)

		<p>行政支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員向けメルマガの発行 ・市の計画、施策に関連した資料の収集 ・新聞記事リスト作成 ・ブックリスト作成配布
	③情報を得るための通信、アクセス環境の整備充実	無線LAN環境(ホットスポット)の提供
		<p>パソコンの館内貸出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大井図書館設置検討
		商用データベースの導入
(2)市民の学びを支える図書館を目指します	①市内小・中・高等学校・大学、他図書館、他施設等とのネットワークづくり	<p>市内の小中学校・高等学校・大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校向け利用案内の配布 ・図書主任向け、懇談会の開催 ・職場体験活動の支援 ・文京学院大学図書館との相互利用の検討
		<p>市役所、子育て支援センターとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ支援 ・ブックスタート支援
		<p>他図書館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域利用のPR ・国会図書館レファレンス共同データベースの活用
	②市民の学習活動の成果を発揮できる場の提供	ボランティアの育成と場の提供
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア講座の実施 		
<p>展示スペースの有効活用の促進</p> <p>集会室(学習室)の提供</p>		
	③誰でも必要な情報を得るための支援	パソコン講習会、本の探し方講座の開催
		<p>障がい者サービス要綱の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅配サービスの実施 ・学習障がい児への対応 ・著作権改正に伴う録音図書の整備充実 ・録音図書のデジタル化の推進
		日本語を母国語としない人のための資料の整備充実
		<p>レファレンスサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大井図書館「あんないカウンター」設置の検討

(3)市民とともに歩む図書館を目指します	①市民の声を反映する図書館運営	図書館協議会会議の開催
		利用者アンケート調査の実施
		投書箱の設置と回答の公開
		さまざまな機会と媒体を利用した広報の実施
		利用者懇談会の開催
	②市民の要望に的確にこたえるための図書館職員の資質の向上	計画的な研修への参加及び職員全体への研修成果のフィードバック
		館内研修の実施 ・レファレンスサービスの組織化及び情報の共有、パスファインダーの構築 ・臨時職員を含めた接遇、レファレンス研修の実施
	③未来を担う子どもたちの読書環境の充実	お話し会等児童向け行事の実施 ・運営の方法の検討 ・夏休み特別行事の実施
		Web 公開も含めたブックリストの作成
		読み聞かせ講座の実施
		学校訪問の実施
		移動図書館の実施
		地域文庫の整備充実
	ティーンエイジ資料の充実	